

平成29年第2回 名張市地域公共交通会議 事業推進部会 議事概要

日時 平成29年5月30日（火）

午後1時より

場所 名張市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

中平 恭之（近畿大学工業高等専門学校准教授）

木寺 正仁（市民公募）

寺岡 正和（名張市保育所（園）保護者会連絡協議会 会長）

田中 明子（名張市地域環境部長）

（2）事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

（1）事業推進部会 事業報告

事務局より資料に基づき説明

（質問）平成28年度の取組として、子供向けの取組はかなり実施されているが、高齢者に対する啓発等の取組はどのように考えているか。

（回答）高齢者に対する取組については、事業計画に記載もさせていただいているが、緑が丘コミュニティバス運営協議会からの要請もあり、6月23日に緑が丘地区において高齢者のバスの乗り方教室を開催する予定である。

（意見）高齢者の方は地方部に行くほどバスの乗り方をあまり知らない人が多い。今まで乗ったことがないという方も結構いる。特に村社会ではプライドが許さないという方もいる。

（質問）何のプライドですか。

（回答）今まで車に乗っていたのに、バスを利用することは、健康を害したとか体が弱ったということを周りに示すようで抵抗がある。だから、ちょっと危なくても車を運転しているということです。

- (意見) 全体会議において、事業推進部会から事業報告する際には、特に乗車調査の部分を重点的に報告し、他の委員の皆さんにも公共交通を利用する際には、標示等に気を付けて見ていただければという啓発の意味合いも込めるよう工夫してはどうかと思う。
- (意見) 子供たちに対するいろんな啓発をすることはいいことだと思うが、率直に言うと、交通マナーやコミュニティバスの社会的役割等の勉強にはなるだろうと思うが、それ以上のことではないと思う。市民がバスに乗ろうと思えるような啓発をしないと実際には利用者は増えないと思う。そのためには、利用者が乗りたいと思うようなバスのシステムを考える必要があり、ただ利用啓発だけではなく、2つを並行してやっていかなければならないと思う。
- (回答) 以前に受講した研修の講師が言っていましたが、小学生といっても1年たつと中学生になり、3年たつと高校生になる。小学6年生に公共交通について教えるということは、バスの担い手を作ることにつながっており、効果はすぐには見えなくても、こういった取組を続けていくことは大事なことであるとのこと。事務局としても一過性のイベントとして捉えているわけではなく、こういう取組を続けていくことも重要だと考えている。
- (意見) 通学するのにバスが必要であれば本人や親が判断して乗ると思う。小学生の時にバスの存在知ったからということではないと思う。
- (回答) 普段車にしか乗っていなかったら、バスが選択肢として出てこないの、移動の選択肢としてバスがあるということを知っていただくということです。
- (意見) ヨーロッパでは、小さいころから公共交通は自分たちで守っていかないと継続できないということが教育されている。バスに関わっていなければ、移動する時の選択肢にバスが入ってこない。特に都市部に比べて地方部ではそういった傾向が顕著であるので、こういう細かい取り組みであってもできる限りたくさん実施した方がいいと思う。即効的な効果を計るのは難しいが、認知を広げるという意味では多少なりとも効果はあると考えている。
- (意見) 全体会議で報告する際にも、子どもに対する取組ばかりやっているという捉え方をされるかもしれないので、その点の説明を加えた方が取組の意味を理解してもらいやすいと思う。
- (意見) 利用者を増やすということが事業推進部会の主たる取組であれば、そのための具体的な取組を計画していく必要があると思う。写真で見ると子供たちがたくさん集まっていて、いい雰囲気ではあるが、それだけのこととってしまう。

(回答) 利用促進の手法はまだ確立されていない部分もあるが、子供に対する「バスの乗り方教室」などは他市でも多数実施されており、ある程度ノウハウがある。そういったノウハウを持ってない状態で利用促進啓発を実施するにあたっては、先行事例を参考としてできることからやらせていただいた。一般の方に対する利用促進については、バスマップの作成や観光との連携についてこの部会で協議いただいておりますが、この方法が名張市にとって最も良いという結論が出ていないので、平成29年度も引き続き検討していきたいと考えている。

(質問) こういう取組をしようということはどの段階で決めるのか。

(回答) それをこの部会で決めていただく。取組の方向性としては、これまで協議をしてきたように、観光との連携もあるが、免許返納者の増加を見据えた誰もが利用しやすい公共交通網の整備ということであり、この会議で決めたことを皆でやっていくということである。

(2) 平成29年度 事業計画

事務局より資料に基づき説明

(意見) 美旗地域は、現在、小波田を通るルートが実証実験中だと思う。はたっこ号は割と乗車率が高いので、なぜ乗車率が上がるのかということも聞かせてもらおうと他の運行協議会にも参考になるのではないかと思う。

(意見) コミュニティバスの運行協議会同士が交流する協議会が以前からあるにも関わらず、それが運用されていないというのは前から聞いている。そういった交流の場をもっと意識的に作るべきである。

(回答) それがこの部会と別にもう一つ作っている地域連携部会である。名称はまだ決まっていないが、コミュニティバス同士の連携等を考えていく協議体の立ち上げを平成29年度に予定しており、地域連携部会は現在その準備会として活動している。

(意見) 1年前に2つのコミュニティバス運行協議会の代表者に話を聞いたところ、要望しているにもかかわらずそういった話し合いの場が1年に1回ぐらいしか開催されなかったと言われていた。それぞれの優れた点、悩んでいる点についてそれぞれが学び合って、より発展させていくという場を持つことについて音頭をとるのは市だと考える。

(回答) 連絡会議は年1回ぐらいの開催頻度であり、開催していない年もあったため、

今般、地域連携部会も置かせていただき、より横の連携を強めていくために運行協議会同士の協議体を立ち上げようということで動いている。今後は、より活発に交流する機会を持ってもらい、また、その会議の中でどういう交通網が有効であるかといったことも検討してもらいたいと考えている。

(意見) 連絡会議の開催を要請したにも関わらず、1年に1回ぐらいしか開催されなかったという実際の声を聞いている。

(回答) それを改めるために地域連携部会を立ち上げて進めていこうとしているので、今後この部会も一緒に考えていってもらいたいと思っている。

(質問) 先日の乗車調査の際に、バス停表示の整合性のなさ等を確認したが、誰が対応していくのか。

(回答) 取組としては、この事業推進部会を含めて、皆さんで取り組むというのが基本であると考えている。市だけでは不可能である。

(意見) 地元の人が自分たちの地域のために取り組むのはいいことだと思うが、地域の方はみんな素人なので、できるだけ早く玄人になってもらうためには誰かがサポートしてあげなければならない。それが行政の役割であり、行政がサポートしてできるだけ交流をもって、それぞれの悩みを共通認識にして一緒に解決していくことが重要である。

(回答) 取組が遅いというご指摘もいただいているが、その必要性というのは十分に承知しているし、今後そういった形で進めていきたいと考えている。

(質問) 資料2-1で黄色着色の部分が取組を始めたもしくは検討を開始したものとされているが、これが現在の利用者に対して啓発していくという取組の出発点であると思う。こういったマップや標識等については、デザイナーに発注することを考えているのか。

(回答) 成果品としての姿が見えているわけではないが、主要停留所においてバス停標識が乱立している状況や掲載内容の整合が取れていない状況をまず見やすいようにすっきりと改める、単体の路線ではなくできればすべての路線が分かって、かつ、主な目的地までどの路線を利用すればよいか、所要時間はどれくらいかということを、これからバスを利用する人がこの1枚を見れば比較的分かりやすく伝えられるようなものを整えていきたいと考えている。作り方については、自分たちで作る手法もあるし、案内板に企業広告欄を付け、企業広告費を集めながら、集めた資金でデザイン会社等に発注するという手法もある。コミュニティバスは路線の見直しや運賃の変更もあるので、差替えの可能なものがよいのではないかと考えている。

(質問) 誰が実施するのか。

(回答) この会議で実施していきたいと考えている。

(質問) たたき台を示してもらわないと検討を進められないが、そのたたき台は誰が作るのか。

(回答) たたき台は事務局が提案させていただき、それについて検討を進めていくのはこの会議である。

(意見) バスマップを作るのは、詳細な地図帳に路線図を書いていくやり方もあれば、簡易な記載のものや近くの観光地、コンビニやスーパーなどを書いていくものなどいろいろなものがある。まず、それをどのように作っていくのかということをもっとこの会議で決める必要がある。それは事務局だけで決めることではないと思う。

(回答) 駅前に設置するものなのか、各家庭に備えてもらうものなのか、使い方によって載せる情報も変わってくるので、地域の方にもワークショップ等で集まっていたいただいて、利用者の方にいろんな意見を聞かせていただき、いただいた意見の中でバスマップに乗せることによって効果的だと思える情報を掲載し、地域住民に配布することにより、新たな利用者の獲得につなげていきたいと考えている。

(意見) バスマップを作るときにはいろんなパターンがあって、例えば、簡易なものしか作らず、詳細はここへ問い合わせくださいというものもあれば、簡易なものを作って置いて、目的地への所要時間などの情報をウェブ上で市民の方に書き込んでもらうというパターンなど、バスマップにはいろんな可能性があるだけに難しいと思う。インバウンドの面からは、韓国語や中国語も作っておく必要性も考えられるが、まずは生活交通を考えた方がよいと思う。

(意見) 平成29年度の事業計画が簡易にまとめられているが、バスマップの作成と案内板の整備、充実という項目だけでも相当大きな内容である。公共交通会議が今後も続いていく中で、3年なり5年のスパンの中で平成29年度はここまでやるということにしないと、このわずか数行で書かれていることをこの1年間で取り組むのはとても大変だと思う。コミュニティバスを運行している地域の中でどこか1カ所だけでも手がけていけば、そのノウハウをもって他の地域へも拡大していけるだろうと思う。

(意見) おそらく単年度では無理だと思う。継続して改変していきながら3年5年というスパンで作り上げていくものだと思う。

(質問) 全体会議で事業報告をする際にはこの形で資料を出すのか。

(回答) この部会でご意見をいただき、部会として何をするのか委員の皆さんに伝わりやすいような内容にしていきたいと思っている。中でも一番大事だと考えているのは、ニーズ把握であり、バスマップの作成に合わせて部会として各

地域へ入っていく必要があると思っている。

- (質問) 事業推進部会は、今あるものを改善して利用が増えるようなシステムを作るためにお互い話し合う場だと思っているが、そういう認識でよいか。
- (回答) 事業推進部会は、地域公共交通網形成計画に記載してあることを円滑に進めるための部会であって、一番大きな項目である路線再編に向けて、その方向性を検討するため、まずはニーズの把握をしっかりやっていく必要がある。それと合わせて、現在の公共交通は使って残していかなければならないので、利用促進の取り組みも並行して進めていく必要がある。
- (質問) それが事業推進部会のテーマであるとしたら、専門的な判断が求められることからたたき台がなければイメージがわからない。具体的な路線や乗換等のイメージはいつ示されるのか。
- (回答) まだそこまでのたたき台を示せるほどの方向性が、事務局も含めてこの会議として見えていないと思う。
- (意見) 前から話が出てきているように、目的別で考えてみたらどうかと思う。それで100%解決できるということではないが、それも一つのあり方だと思う。
- (意見) 地域のみなさんが暮らしていくための交通手段を確保していこうとするならば、利用者の方と話をする必要があり、そのための第1歩として平成29年度はバスマップ作成などのワークショップから取り組もうということを事務局が提案しているのだと思う。
- (質問) コミュニティバスを運行している方たちが今抱えている課題や利用者がなかなか増えていかない問題を長期のスパンで見てもいいのか。
- (回答) 長期的に見ていく部分と、もっとスピーディーに取り組んでいくべき部分の両方の側面があり、そのために部会を別に分けて取り組んでいます。こちらの部会は、住民の意識を変えていくという行動変容の部分があるので、そのためにはまず投げかけが必要である。
- (意見) 保育園の保護者としての視点というところでは具体的な意見は出てこないが、観光で営利が発生するところであれば三重交通や近鉄等の事業者が路線を確保するだろうし、生活交通に重きを置くのであれば、利用者の声や免許返納者に焦点を絞って考えていった方がよいと思う。
- (意見) 利用者の立場に立てば、路線バスもコミュニティバスもバスというひとくくりのものである。コミュニティバスばかり考えていると交通網としてうまく機能しなくなるので、考え方としては、路線バスもコミュニティバスもひとくくりのバス交通として考えるべきである。タクシーも公共交通なので、タクシーの活用についても考えていく必要がある。近年、公共交通については、

法改正も相次ぎ、現在も国において様々な検討がなされていることから、そういった動向を見据えながら、長期的また短期的な取組について進めていく必要がある。

(意見) 自動車そのものの性能も相当飛躍的に改善されている。すぐには完全自動運転にはならないと思うが、移動全体のシステムを考え直さなくてはならないことも起こり得るのではないかと思う。

(まとめ)

きめ細やかに地域へ出向いて話を聞くというのもニーズ調査の一環であるし、予算が付けば大々的にアンケートを実施するという手法もある。利用者の意見を聞くということは非常に大切なことなので、事業推進部会としてぜひ取り組んでいきたい。

4. その他

(事務局) 本日の会議を踏まえ、平成29年度の事業報告について、段階的な取組みと本年度の取組内容が分かりやすいものに整理するというので、部会長と事務局で取りまとめをさせていただく。なお、本日の資料の最後に事業推進部会の委員推薦書を添付している。事業推進部会の構成としては、「会長が指名する者」と「交通会議が必要と認める者」となっており、「交通会議が必要と認める者」として自薦、他薦を問わない、また、定員を設けず随時拡充していくということで説明をさせていただいている。この6月9日をもって、交通会議委員の任期が満了となるので、今後、平成29年度の取組を実施していく中で委員として適任な方がいらっしゃれば自薦、他薦いただければと思う。任期が6月9日までとなることから、6月10日以降で自薦、他薦いただければと考えている。

次回全体会議は7月10日前後に開催予定